

## 沈黙する提出物

以前「おしゃべりな提出物」というタイトルで、「提出物は本人が思うよりも多くのことを相手に伝えていますよ。」という話をしたことがあります。(セミナー通信 1997/10 vol.42)

塾でも宿題としてプリントやワークの提出をさせますが、期日までに出てこなかったり、間違い直しがなかなか終わらなかったり、挙げ句の果てに紛失したりするケースも少なくありません。以前は「提出物は当然出てくるものだ」という前提のもと、「どのような点に注意して提出物を出すべきか」という視点から書いていたのですが、どうも最近は「なぜ提出物を出さないといけないのか」を語らなければならない状況になってきました。

義務教育期間中に身につけるべき事はいろいろあるでしょうが、私は「提出物を期日までに出すこと」が何よりも重要であると考えています。社会に出て働くようになったとき、任された仕事(課題・提出物)を期日(提出期限)までに処理することは、入社したての新人であっても守ってもらわなければならないことであり、遅延や紛失などということになるとその責任は個人のレベルを超えて組織(会社)としての信用問題にもなります。

もちろん誰もが生まれつききちんとできて当然のこととは思いません。だからこそ小中学生の頃に経験させ、練習する必要があるのです。むしろそのつもりで訓練しなければ身に付かないものと思うべきです。

そしてこれを当然のこととして体得することが、結局は自分自身の評価を上げ、より重要な仕事を任されたり、より多くの協力者に恵まれたりすることになるのです。つまりは自分の夢の実現に近づくことができるわけです。

では、そのための一歩として普段からどうするべきかと言うことですが、まずは課題(プリントなど)の整理整頓です。最低限「まだ終わっていないもの(未決)」と「完了したもの(既決)」に分け、課題を紛失しないことです。次に「完了したもの」をそれぞれの種別ごとにファイルし保存する習慣を付けることです。細かく分類ができればいいのですが、いきなりは無理でしょうから、最初は学校と塾の2分割だけでもよいでしょう。(ボックスタイプのファイルもあるので、順番に入れていくだけでもかまいません。)

提出物も出されなければ何も「しゃべり」ません。でもそれは評価にすら値しないことを意味します。「うちの子はそういうのが苦手なんです。」とおっしゃる保護者の方は、社会人になったお子さんの会社の上司にも同じ事を言いに行かれるつもりですか。